地方小出版 情報誌
アクセス

毎月 1 回　1 日発行
購読料　定価 150 円
（本体 143 円）
年間 1,500 円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒 162-0836　東京都新宿区南町 20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

『ひとり出版社「岩田書院」の舞台裏』Part3
（岩田書院刊、1500 円）

日本史の専門書を出し続けて 20 年

社会 (ごく狭い社会だが) に必要とされている、という実感は、ある。岩田書院がやらなくて、どこがやる、みたいな。

文・岩田　博

お陰様で、岩田書院は、今年 6 月に創立 20 周年を迎えることができました。月並みなことばですが、これもひとえに皆様方のご支援の賜物と、厚くお礼申し上げます。

出版総点数は 825 点

まず最初に、岩田書院のことを知らない人のために、基本的な事項をざっと説明しておきます。創立は 1993 年 6 月。大学卒業後 20 年近く勤めていた名著出版を退社して独立。それまで手がけていた日本史・民俗学系の専門書を中心に出版活動を続け、2013 年 9 月現在の総点数は 825 点。創立以来、従業員を雇わず、事務所も自宅近くのマンションの一室を借りて、なんとかしのいでいます。ここ数年の新刊点数は年 50 ～ 60 点で、年商は 1 億 2000 万円。

なんでこんなに出せるのだ？、しかも一人で。というのが、この業界の大方の疑問のようです。そして、そのエネルギーはどこから出てくるのだ、とも聞かれます。なにが岩田書院をして、そこまでさせるのだ？、と。

で、まず

Q1：なんで一人で年間 60 点の新刊を出せるのか、という問いに対して。答えは二つ。

A1-1：原稿があるから。いくら出版したいと思っても、原稿がなければ本は出せません。その原稿が次から次へと来ます。それには、いくつかの要因があります。原稿が「来ます」と書いたのは、ほとんどの場合、こちらから依頼したのではなく、依頼されて出版するからです。

一人出版社だから採算分岐点が低い

人文系専門書の場合、著書の「あとがき」に常にみられるように、「この出版事情の厳しいなか、出版していただいた」という趣旨の、出版社に対する謝辞が入っています。それだけ事情は厳しい。どう厳しいか。出版社が著者に対して、経費負担を要求する。何冊買上げろとか、100 万円用意しろとか、どこかから助成金をもらってこいとか、もちろん言い方はもっと柔らかいですが、言ってることは同じ。岩田書院の場合は、一人でやっているので諸経費が少なくてすむので、採算分岐点が低い。だから著者の金銭的な負担が少なくてすむ。

本作りをしっかりすること

これは基本的なことですが、校正や装幀など、本作りをしっかりすること。それと、広告をきちんとすること。大新聞に広告をださなくても、著者が所属しているような学会の会員には、しっかりと情報が伝わるようにすること。こういったところを著者はよく見ているので、そこで評価され、岩田書院に頼めば安心、と思ってもらえれば、仕事というものは来るものです。来て欲しくないようなものも、来るが。（苦笑）

あと、けっこう大事なことだが、著者も出版を断られるのがいやだから、出してくれそうなところに話を持って行く。大きな会社だと、担当者がいいと言っても、営業がダメだと言ったと

かで、返事を1か月以上も待たされたうえに断られる。著者のダメージは大きい。そこへいくと岩田書院は私一人だから、即決です。

A1-2：原稿があっても、それを本にする力がないとできません。一人でできることは限られてます。なので、外部スタッフをフル動員です。編集関係は、フリーの編集者を4、5人お願いしてるし、在庫管理と取次納品は倉庫会社に委託してるし。でも、こうやって仕事を外に出していると、その管理がけっこう大変だし、経費もかなりかかります。でも、営業を一人雇って、売上げが倍になるわけはないから、一人で出来ることは自分でやって、出来ないことは外部に頼む。そして、その範囲内でやって、会社を大きくしようと思わない。自分と家族が生活していければいいのだから。

この仕事が好きだから、かな…。

Q2：なにが岩田書院をして、そこまでさせるのだ、という問いに対して。これは、答えがむずかしい。でも、あえて言うと、

A2：この仕事が好きだから、かな…。この仕事しかできないから、目の前に仕事がいっぱいあるから、本を作ると著者・編者・執筆者から感謝されるから、読者からも褒めてもらえるから。あと、なにがあるかな…。子供も大きくなって、趣味もないし、仕事しかすることがないから（我が家に自分の居場所がない…）。そうだ、儲かったときは、全〜部、自分のものになるから。

理想主義的な考えは、ナイ。

言えるのは、出版文化のためだとか、そういう理想主義的な考えは、ナイ。これは確か。ただ、社会（ごく狭い社会だが）に必要とされている、という実感は、ある。岩田書院がやらなくて、どこがやる、みたいな。

でも、朝8時過ぎから夜の1時過ぎまで仕事して、盆暮れも仕事して、それでいて、風邪もひかず、ここのところ休んだ記憶がない。でも、こんな生活が好きか？、と聞かれたら、はい、とは言えないな。

去る8月4日に、東京神保町の東京堂ホールで、岩田書院創立20周年記念パーティーをやりました。事前申込み制にせず、会費もとらず、案内は岩田書院ウェブサイトとＤＭ13000通に乗せただけ。こんなことじゃ、いったい何人が来てくれるのかさっぱり判らない。そんな状態で当日を迎えました。当日限りの謝恩セールとして、岩田書院の刊行書籍全点を並べて、25%offにした効果もあったのか、参加者はスタッフも入れて170人、謝恩セールの売上げは100万円超。お祝いもいただいたりして、しっかりと元をとる岩田書院でした。

ご出席いただいた方々、お手伝いくださった方々、来られなくても応援メッセージをくれた方々、こういった人たちに支えられての20年だったんだな、と、しみじみ感じた一日でした。皆さん、ありがとうございました。そして、これからも、岩田書院のことをよろしくお願いします。

最後に宣伝を。宣伝用の新刊ニュースの裏面に書いているコラムをまとめました。**『ひとり出版社「岩田書院」の舞台裏』Part3**（岩田書院刊、1500円）。よかったら買ってください。

（いわたひろし・岩田書院代表）

新刊ダイジェスト

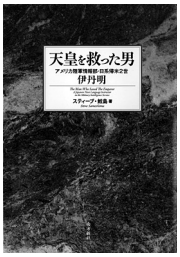
※価格は総額（税込）表示です。

『ひとり出版社「岩田書院」の舞台裏　Ｐａｒｔ３　２００８－２０１３』●岩田　博著

今年創立20周年を迎えた岩田書院。社長である著者がひとりで切り盛りする日本史・民俗学関係の専門出版社だが、本書はここ5年間の新刊ニュースの裏だよりを再録したもの。これで3冊目となるが、専門出版社が抱える問題・悩みを包み隠さずさらけ出そうという姿勢を貫いているせいか、愚痴を通り越し、あちこちに毒も散りばめられている。各地で開催される学会での本の売上の話や印刷製本所などの業界の内幕も興味深い。毒があっても出版文化への情熱は十分に伝わってくる。著者が新卒で入社した名著出版が発行する『歴史手帖』で79年から91年まで書いていた編集後記も収録。出版文化の変遷も示され、20周年に花を添えている。

◆1575円・四六判・158頁・**岩田書院**・東京・2013/8刊・ISBN978-4-87294-820-2

『天皇を救った男　－アメリカ陸軍情報部・日系帰米２世　伊丹明』●スティーブ・鮫島著



太平洋戦争後の最大の関心は、極東軍事裁判（東京裁判）で「天皇訴追」がどうなるかであった。結果は、天皇は存続したが、それはいかにしてなされたのかという戦後最大の謎が生まれた。その謎を解くキーマンが本書の主人公・伊丹明（1911－1949）で、彼の真実がここに初めて明らかにされる。　山崎豊子の小説『二つの祖国』の主人公モデルともいわれる伊丹明は、アメリカで生まれて日本で育ち20歳で帰米（帰米2世という）する。日米両国で数々の差別と排斥を受け、挫折に苦しむ。その後伊丹は、アメリカ陸軍情報部の一員として東京裁判の裏方として働き、問題の核心へと進んでいく。戦後史発掘の貴重な労大作である。

◆6090円・Ａ5判・459頁・**南方新社**・鹿児島・2013/8刊・ISBN978-4-86124-268-7

『沖縄の鉄道と旅をする　ーケイビン・ゆいレール・ＬＲＴ』●ゆたかはじめ著

ゆいレール開通まで長らく鉄道の無かった沖縄。そんな沖縄にもかつて多様な鉄路が存在していました。「ケイビン」と呼ばれた沖縄県営鉄道。さらには路面電車や馬車軌道から南大東島の製糖工場の貨物列車まで。著者はそれぞれの走っていた跡を辿り、在りし日に思いを馳せつつ今の沿線の姿を描き出していきます。

しかしその視線は過去だけでなく、現在、さらには未来にも注がれています。それは沖縄に路面電車を走らせること。特に床の低いLRTは昨今の都市交通の見直しの中で注目されており、沖縄でも導入への機運は高まりつつあるようです。車を使わず沖縄観光ができる日を思い描くのもまた楽しいものです。

◆1995円・四六判・256頁・**沖縄タイムス社**・沖縄・2013/8刊・ISBN978-4-87127-210-0

『ヒロシマの記憶　原発の刻印　ーヒロシマを知り原発を考える』●肥田舜太郎著

原爆投下直後の広島で治療活動を行った医師、肥田舜太郎。その中で直接原爆に遭遇していないのに被爆者と同じ症状で亡くなる人たちに気付きます。それが長く人を苦しめ続ける内部被爆です。内部被爆は原爆認定の壁になるなど、なかなか理解されず、アメリカも知りながらそれを認めようとしない。

そんな現実と向かい合ってきました。そして原発危機の今、なお原子力を使い続けようとする現実があります。こうした日本の過去と今とを見据えた視点から、核の恐ろしさと声を上げることの大切さが語られます。核はなぜだめなのか？「持っているだけで、人が死ぬ」から。ここに肥田氏の思いがこめられています。

◆1470円・四六判・203頁・**遊絲社**・奈良・2013/8刊・ISBN978-4-946550-37-9

『川内原発を巨大地震が襲う』●立石雅昭著

2013年2月、国の地震調査研究推進本部は鹿児島県川内原発周辺の活断層を大幅に見直すとの報告書を発表した。本書巻末に収録された概要と議事録抜粋を読むと、九電による断層調査が如何にご都合主義であったかがよくわかる。

だが九電に限らず、これまで原発設置にあたっての調査は電力会社に委ねられてきた。2009年に鹿児島県内の市民、学生、研究者によって結成された川内原発断層研究会は、九電による地質関係調査資料を検証すると共に、段丘、地殻構造と変動、巨大噴火などについて現地調査を行ってきた。その科学的見地からの結論は、原発立地に耐えられる条件にはないのである。

◆1575円・Ａ５判・135頁・**南方新社**・鹿児島・2013/8刊・ISBN978-4-86124-276-2

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2013年9月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

◆**ｆａｕｒａ**　４１　ナチュラリー編　Ａ４　80頁　１０００円　ナチュラリー［北海道］　978-4-503-19975-1　13/09

◆**ゆきのまち通信**　１４８　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　50頁　５００円　企画集団ぷりずむ［青森］　978-4-503-19970-6　13/09

◆**会津人群像**　Ｎｏ．２４　阿部　隆一編　Ｂ５　143頁　１２６０円　歴史春秋社［福島］　978-4-89757-810-1　13/09

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４０５　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-905457-37-4　13/09

◆**響き合う街で**　Ｎｏ．６６　やどかり出版編　Ｂ５　58頁　１２６０円　やどかり出版［埼玉］　978-4-503-19964-5　13/08

◆**詩とファンタジー**　第２３号　やなせ　たかし編　Ａ４　96頁　１０５０円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-503-19968-3　13/09

◆**オルタ**　４４４　田中　滋編　Ｂ５　17頁　３１５円　アジア太平洋資料センター［東京］　978-4-503-19971-3　13/09

◆**仏事**　Ｎｏ．１５７　清水　祐孝編　Ａ４　96頁　１５７５円　鎌倉新

売行良好書　期間：2013年9月16日～10月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『点滴ポール　生き抜くという旗印』1470円・ナナロク社　(2)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク　(3)『赤とんぼ』1890円・長崎文献社　(4)『寄席演芸家名鑑』1890円・東京かわら版　(5)『万象の訪れ』2520円・弦書房　(6)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社　(7)『東北発　災害復興学入門』840円・山形大学出版会　(8)『フーリエの冒険　新装改訂版』3675円・言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ　(9)『ロシアのオリエンタリズム』4200円・成文社　(10)『ビーチコーミングをはじめよう』1890円・木星舎　(11)『昭和の貌』2310円・弦書房　(12)『西荻窪の古本屋さん』1575円・本の雑誌社　(13)『自適農の無農薬栽培』1680円・創風社出版　(14)『顕如・教如と一向一揆』1575円・サンライズ出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］※税込み価格

(1)『東京かわら版　１０月号』420円・東京かわら版　(2)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(3)『西荻窪の古本屋さん』1575円・本の雑誌社　(4)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク　(5)『伊勢神宮　こころを照らす神々の都』2625円・書肆侃侃房　(6)『ふるさと発見！信州あるある』945円・しなのき書房　(7)『戦国の境目』2625円・まつやま書房　(8)『石心』1785円・石風社　(9)『昭和プロレスマガジン　３０』1000円・昭和プロレス研究室　(10)『福田村事件』1200円・崙書房

［ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『ペコロスの母に会いに行く』1260円・西日本新聞社　(2)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク　(3)『吉田類の土佐酒ｍｏｒｅ』1050円・高知新聞社　(4)『残念女の酔っ払い日記』1365円・象の森書房　(5)『戦国の境目』2625円・まつやま書房　(6)『スウェーデン　森に遊び街を歩く』1575円・書肆侃侃房　(7)『八月のフルート奏者』1785円・書肆侃侃房　(8)『神意』980円・読書館　(9)『赤とんぼ』1890円・長崎文献社　(10)『学生や市民のための生物多様性読本』2520円・南方新社　(11)『横綱照国物語』1785円・無明舎出版　(12)『クニマス・ハタハタ　秋田の魚１００』2800円・東北出版企画

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼ 栃木県内の出版社の書籍が一堂に会する「**栃木県出版文化展**」が３～４日、曲師町のギャラリー「星ケ宮アートスペース」にて開催されます。また今年３回目を迎えるという『**オリオン・一箱古本市**』も。宇都宮市・オリオン通り曲師町商店街アーケード内にて。

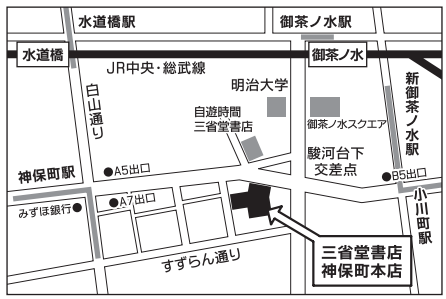
▼ 先月号の１面に御寄稿いただいたノンフィクション作家・飯田辰彦氏の『**罠師 片桐邦雄**』**(鉱脈社)** 出版記念イベントがジュンク堂池袋店にて開催予定です。トークセッション『自然はウソをつかない！～天才罠師が腑分けする野生、環境、そして人間の未来～　片桐邦雄 (天然肉専門店 [片桐] 代表 / 寿司割烹 [竹染] 店主) × 飯田 辰彦 (ノンフィクション作家)』は、11月12日（火）19:30 ～ ４Ｆ喫茶コーナーにて。入場料1000円（ドリンク付）。ご予約はジュンク堂書店池袋本店１Ｆカウンターか TEL 03-5956-6111 まで。

▼ 10月20日、『広告批評』元編集長・天野祐吉さんが亡くなりました。享年80歳。ご冥福をお祈りいたします。この４月にはともに同誌を創刊した島森路子さんが亡くなったばかりでした。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店 BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM ～ 8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。